

. エラーメッセージ

表示されるエラーメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
将来の日付は入力できません	「取引年月日」欄に実際の日付を超えた日付が入力されている
指定できる日は、YYYY年MM月DD日までです	「取引年月日」欄に入力可能月（当月から4か月間）の範囲外の日付が入力されている （例）4月まで月次更新済みの場合、8月までの取引年月日の仕訳が読み込み可
この月の入力はできません。直近の月次更新完了月以降の入力が可能です	「取引年月日」欄に当月の前々月以前の日付が入力されている （例）4月まで月次更新済みの場合、2月の仕訳は読み込み不可
直近の月次更新完了月の仕訳入力は禁止されています	「取引年月日」欄にシステム情報で「直近の月次更新完了月の仕訳入力」が禁止すると設定されているにもかかわらず、「直近の月次更新完了月」の日付が入力されている
会計事務所が監査中のため、この月の仕訳の訂正加除はできません。詳しくは会計事務所にお問合せください	「取引年月日」欄に月次巡回監査メニューの「関与先による監査対象月の入力を禁止」にチェックが付けられているにもかかわらず、監査対象月の日付が入力されている
証憑番号には半角数字の入力のみ可能です	「証憑番号」欄にシステム情報で半角数字のみと設定しているにもかかわらず、文字列が入力されている
課税区分、借方科目及び貸方科目の組合せが正しくありません。課税区分又は勘定科目を見直してください	以下のいずれかの条件に合致する ・「課税区分」欄に課税区分が入力されていない ・「借方(貸方)科目コード」欄に入力されている勘定科目と「課税区分」欄に入力されている課税区分の組合せが正しくない
事業区分が入力されていないか、誤った事業区分が入力されています	「事業区分」欄に事業区分が入力されていない。または、存在しない事業区分が入力されている
存在しない借方(貸方)科目コードです	「借方(貸方)科目コード」欄に存在しない勘定科目コードが入力されている。または、製造原価科目を「利用しない」と設定しているにもか

	かわらず、製造原価科目の科目コードが入力されている
補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています	「借方(貸方)補助コード」欄に補助コードが入力されていない。または、登録されていない補助コードが入力されている
税率が入力されていないか、誤った税率が入力されています	「税率」欄に以下のいずれかの条件に合致する税率が入力されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・消費税情報の税率テーブルに登録されていない税率が入力されている ・税率が必要な課税区分(*)で税率に0%が入力されている (*) '1', '11', '12', '5', '51', '55', '6', '61', '65', '7', '71', '75', '57', '58', '67', '68', '77', '78' <ul style="list-style-type: none"> ・税率と軽減対象取引区分の組み合わせで存在しない税率が入力されている。 (例) 税率「500」、軽減対象取引区分「1」
取引先名は全角 16 文字(半角 32 文字)以内で入力してください	「取引先名」欄に全角 16 文字(半角 32 文字)を超えた名称が入力されている
取引先が入力されていないか、誤った取引先が入力されています	入力された勘定科目が取引先別管理科目とされているにもかかわらず、「取引先コード」欄に、取引先コードが0、または登録されていないコードが入力されている
実際の仕入れ年月日を入力してください	「実際の仕入れ年月日」欄に実際の仕入れ年月日が入力されていない
実際の仕入れ年月日 1 (実際の仕入れ年月日 2) の値が誤っています	「実際の仕入れ年月日」欄に「実際の仕入れ日入力パターン」欄で指定した入力パターンと異なる形式で入力されている
元帳摘要は全角 40 文字(半角 80 文字)以内で入力してください	「元帳摘要」欄に全角 40 文字(半角 80 文字)を超えた摘要が入力されている
収支区分が入力されていないか、誤った収支区分が入力されています	「収支区分」欄に収支区分に1~7以外の値が入力されている、または入力されていない
内訳区分が入力されていないか、誤った内訳区分が入力されています	「内訳区分」欄に内訳区分が入力されていない、または登録されていない内訳区分が入力されている
部門コードが入力されていないか、誤った	「部門コード」欄に部門が入力されていない、

部門コードが入力されています。	または登録されていない部門コードが入力されている
貸借の合計額が一致していません	「取引金額」と「税率」から求めた消費税額と、入力した「消費税額」が不一致
XXX:XXXXXX は範囲外の値です	有効値の範囲を超えた値の場合 (例)税込み金額: 123456789012 は範囲外の値です
XXX:XXXXXX は異なった型の値です	定義されている型と異なった型の値の場合 (例)伝票番号: A は異なった型の値です
XXXXXX は入力が必要な項目です	入力が必要な項目を省略した場合 (例)取引年月日は入力が必要な項目です

.警告メッセージ

データに誤りがある場合でも、読込時にF Xクラウドシリーズで自動的にみなし処理を行う場合があります。みなし処理を行う場合のメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
課税区分が不要な取引です。課税区分を消去して読みます	「課税区分」欄に消費税情報で消費税申告書を自動作成しないとしているにもかかわらず、課税区分が入力されている
事業区分が不要な取引です。事業区分を消去して読みます	「事業区分」欄に'1','11'以外の課税区分が入力されているにもかかわらず、事業区分が入力されている
消費税が発生しない取引であるにもかかわらず、消費税額が入力されています。消費税額を消去して読みます	「内、消費税等」欄に課税取引でないにもかかわらず、消費税額が入力されている
取引金額と税率を乗じた結果が、(内、消費税)と一致しないにもかかわらず、消費税自動計算区分が「1」(自動計算する)となっています。消去して読みます	「取引金額」と「税率」から求めた消費税額と、入力した「消費税額」が不一致
税率が不要な取引です。税率を消去して読みます。	「税率」欄に課税取引でないにもかかわらず、税率が入力されている (*)'2','21','25','26','3','31','4','8','9','0'
収支区分が不要な取引です。収支区分を消去して読みます。	「収支区分」欄に収支区分が不要な取引にもかかわらず、収支区分が入力されている
内訳区分が不要な取引です。内訳区分を消去して読みます。	「内訳区分」欄に内訳区分が不要な取引にもかかわらず、内訳区分が入力されている